

平成25年度 終了評価書

研究機関 : DXアンテナ(株)

研究開発課題 : 災害時におけるケーブルテレビ応急復旧システム(可搬型緊急用ヘッドエンド)の研究開発

研究開発期間 : 平成 23 ~ 24年度

代表研究責任者 : 内村 潔

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価 A

■ 総合評価点 : 22点

(総論)

派手さはないが、装置開発をきちんと行っており、目標通りの成果をあげている。また、商品化に向けて大きく進展したことは評価できる。

(コメント)

- 災害対応として、この種の装置を準備しておくことは重要である。ただし、この分野の技術進展は極めて早く、また、使用頻度が高いとは思われないため、費用対効果の観点から、どのような考えを持って所有すべきかを検討する必要がある。
- 細かな点で目標を達成していない点はあるが、概ね当初の目標を達成しており、独自開発の成果も上がっている。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

放送設備を破壊するような大災害の発生は否定できないことから、この種の研究開発を実施したことは、現在でも有用であると判断できる。

(コメント)

- 災害時のための可搬型ヘッドエンドの開発はタイムリーで有意義である。
- 東日本大震災は単なる震災ではなく、日本全国どこにでも起こりうる。その意味で、目標及び政策的な位置づけは十分な裏付けがある。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

研究開発の対象とした多数の機能を有し、1年間という短い研究開発期間を考慮すれば、十分な成果が得られたと判断される。

(コメント)

- 1社の装置開発なので困難さは小さいと思われるが、マネジメントは適切である。
- WiFiは独自の取り組みであったと認識しているが、その点に対する成果が十分に確認できる。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

基本計画書における到達目標以外に、新たに設定した目標を含め大筋満足している。

(コメント)

- 一部で目標を上回る成果が得られた。チャンネル数等。
- 一部、目標達成していない項目もあるが、大部分の課題で目標達成している。
- 概ね目標を達成している。幾つかの細かな点で目標を達成できていないのは少々残念である。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

多数回の説明会を実施しており、積極的な公開を行っている。

(コメント)

- 学術的観点よりも、商品化に重点をおかれた研究開発である点から、報道実績が多数を占めたことは納得できる。
- きちんと開発を行っているので問題ないが、特許は申請してもよいのではないか。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

具体的な商品化のスケジュールが定められており、きちんとした製品化を期待したい。

(コメント)

- 商品化が予定されており、時期が明確に記述されている。
- どの程度の販売規模になるかは、ケーブル局などの財政状況に大きく依存すると思われる。